

情報基礎実習 第 6 回

2014 年 5 月 29 日 (木)、5 月 30 日 (金)

担当教員：逸村裕、高久雅生

TF：池田光雪

良い論文やレポートを書くためには、信頼性の高い情報源を活用することが必要不可欠である。情報源には本、新聞、人など色々あるが、論文やレポートを執筆する際に一番多く用いられる信頼性の高い情報源とはピアレビューを経た論文 (査読論文)である。

今回は日本の論文を探すためのサービスである CiNii Articles、図書館情報学分野の論文を探す上で有用なデータベースである Library Science と LISA (Library and Information Science Abstracts) の使い方を覚え、レポートに取り組んでもらう。

1. 小論文形式のレポートを書くには

世の中に数多くの「レポートの書き方」があるように、レポートは分野やテーマによって望ましい書き方が異なる。したがって、絶対的に正しいレポートの書き方というものは存在しない。しかし、小論文形式のレポートには以下に示すような基本的な書き方がある。

1. テーマを確認する

- レポートの出題者は何を求めているのかを確認する。明示されていない場合はよく考えて類推する
- 何を書くのかを確認する。特に「○○○について述べよ」とある場合、賛成あるいは反対などの方向性を決める

2. レポートの骨子、枠組みを考える

- どのような流れでレポートを執筆するのか考える
- 展開に論理的飛躍がないか、誤謬がないかをよく確認する
 - 「数学は学ぶ必要はない。なぜなら将来使うことはないからだ」は、「将来使わないものは学ぶ必要がない」という隠れた前提がある
 - 「教員の悪口を言うと評価が厳しくなる。したがって、褒めれば評価が甘くなる」は、先の命題の裏であるため必ずしも真とは限らない

3. 関連データ、記事、論文、図書などを探す

- 自説の説得力を高めるためには、それを支える事実などを述べなければならない
- ある 1 つの情報源だけを論拠とすることは時として誤った結論を導く。情報源は必ず複数集め、多角的な視点から問題に取り組むこと。特に、何かに対する賛否を述べるのであれば、自分の主張と対立する主張も集めるべきである

4. 執筆する

- 引用・参照した文献は必ず全て記載する。とくに引用をする場合はその要件を全て

満たさなければ剽窃と見なされ厳しいペナルティーが課される

5. 書式、論旨などの確認をし、推敲する

- 書式が決まっている場合、その書式を守らないことは内容以前の問題であり、一般に評価の対象にすらならない
- 一度執筆が終わったあと、必ず最初から読み直すこと。設定した骨子や枠組み通りに書けたとしても、冗長、あるいはわかりにくい表現、論理の飛躍・誤謬、誤字脱字、誤用などは必ずといっていいほど存在する
- 執筆直後はミスが目にと留まらないことが多い。したがって、推敲は時間を掛けて行うことが望ましい

2. 論文を探す

論文を探すサービス、データベースは無料・有料問わず様々な形態がある。また、検索は無料だが本文を読むのは有料、というモデルも存在する。筑波大学では様々なサービス、データベースと契約しているため、筑波大の回線を使用すれば数多くの論文を読むことができる。学外からでは本文が読めない論文も多々あるため、レポート課題に取り組む際は注意すること。たとえば CiNii Articles で検索可能な論文には、誰でも読める「オープンアクセス」、筑波大学からであれば読める「定額アクセス可能」と、本文はオンラインでは無料で読むことができない論文の 3 種類がある。

今回は CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>) と LISA (<http://search.proquest.com/lisa>)、Library Science (<http://search.proquest.com/librarianscience>) を取り上げ、使い方の実演を授業中に行う。

【本日の出席課題】

授業中に、ある英語論文のタイトルを伝える。その論文に関し、以下の問題 1~3 に取り組み、Lab2014-1.docx にそれぞれの回答を記載・印刷して提出せよ。課題名は「第 6 回出席課題」とし、**提出期限は 2 限開始時 (10:10) まで**とする。全て終わらない場合でも途中で切り上げ、必ず締め切りまでに提出すること。

問題 1

この論文の著者 3 人の日本語名を全て記せ (例: Hiroshi Itsumura ならば逸村裕)。

問題 2

この論文の書誌を SIST02 形式で記せ。

問題 3

この論文のタイトルとアブストラクトを日本語に訳せ。

今回のレポート課題

- 締め切り
 - 木曜クラス：6月4日（水）15:00
 - 金曜クラス：6月5日（木）15:00
- 内容

配布された新聞記事を基に、下記の課題 1～5 への回答を記せ
- 提出先

春日エリア 7B 棟 2 階 学務前レポートボックス
- 書式

Lab2014-1.docx を適宜書き換えて使用し、1 ページ/枚で A4 片面印刷。複数枚になる場合はステイプラー（針無しは不可）で左上 1 箇所を綴じること
- 備考
 - これまでのテキストや演習中、返却レポート内などで指示・指摘された細かいレポートの書式（ページ番号の付与や使用フォントなど）は全て遵守すること。既に周知した書式を満足していなかった場合は減点の対象となる
 - 提出後におけるいかなるレポートの差し替えも認めない
 - レポート中のあらゆる箇所において手書きは不可とする
 - 提出先を間違った場合、原則として採点の対象外とする
 - 課題名はふさわしいものを各自で考案し記述すること

課題 1

配布した新聞記事に関連した論文を 5 件以上探し出し、文献リストを作成せよ。

- (1) どのような探索戦略、たとえばキーワードや絞り込みの条件などを用いるのかを記せ
- (2) 探し出した論文の文献リストを SIST02 形式で作成せよ

課題 2

配布記事最後の部分、「どのような未来を望むのか」について、論文 2 点以上（課題 1 で挙げた論文との重複を認める）を引用、もしくは参照の上、1,500 字以上で自身の考えを論じよ。

- (1) 論文の骨子と枠組みを記せ
- (2) 1,500 字以上で「どのような未来を望むのか」について論ぜよ。ただし、必ず 2 件以上の論文を引用、あるいは参照せよ。これらの論文は課題 1 で挙げたものと重複しても構わない。また、引用・参照した文献は全て論述の後に SIST02 形式で記せ。今回の授業で扱ったデータベース以外で探した論文やデータ等もこの文献リストに含めてもよいが、その場合は必ずどのように見つけたかを別途記すこと。なお、論述中で文献を引用するやり方は各自で調べよ（たとえば探索した論文の方法を真似するなど）

課題 3

このレポートに取り組んだ感想を記せ。

課題 4

このレポートに掛かった時間を記せ。ただし、演習時間は除くものとする。

課題 5

第1～6回の情報基礎実習を受講し、「良いと感じる点」「改善すべき点」をそれぞれ具体的かつ詳細に述べよ。なお、この課題5の内容によって今後の評価が厳しく、あるいは甘くなるということはないが、「改善点はない」のような著しく内容に乏しい記述は減点の対象となる。